



桜のある風景



平松記念病院
院長 宗 代次

リカバリー・退院支援

精神科医療における、治療やリハビリテーションのツールは、日々進化しております。私たちは、更なる自己研鑽に努め、患者さまのリカバリー（回復）に適切に対応していけるように毎日努力していきたいと思っております。そこで、少子・高齢化社会の我が国において、当院の新たな役割を模索していかねばなりません。ここに2つの新たな方針を示します。①精神科医療における急性期の治療は、早期発見・早期治療の視点からも重点的に進めたいと考えます。②精神障がいを持ちながら、或いは認知障がいを持ちながらも、福祉を生かして生活をしていく人々に対しての「退院療養支援」・「福祉移行支援活動」を合わせて重点的に進めたいと考えています。

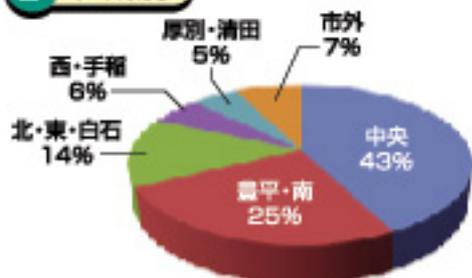


外来診療統計 (平成22年4月分)

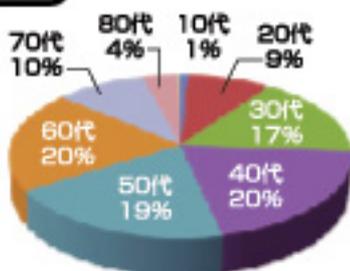
1 男女比



2 住所別



3 年齢別

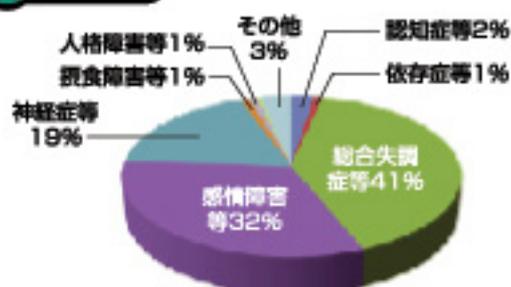


平成21年度入院者・ 疾患別平均入院日数

平成21年度の新規入院患者さんの統計を示しました。疾患はF2とF3で80.2%を占め、睡眠障害の検査入院が8.6%でした。平均入院日数は F2の患者さんは70.7日、F3は65.0日であり、入院してもおおむね2カ月強で退院出来ることが分かります。近年の薬物療法の進歩とクリニカルパスの導入、機能分化した病棟構成、多職種スタッフの充実などが入院の短期化をもたらした要因と考えています。睡眠障害の検査入院は1～2泊の入院です。

(文責 医療情報委員会)

4 疾患別



通院患者さんの男女比はおおよそ4:6です。患者さんの居住地は中央区が43%と多く、次いで多い豊平区と南区を含めるとこれら3区で68%を占めており、近隣からの通院患者さんが多いことが分かります。一方で、市外からの患者さんも7%いらっしゃいます。年齢別構成は30歳代から60歳代までがそれぞれ17～20%であり、その合計が76%で全体の3/4を占めています。他に20歳代と70歳代がそれぞれ9%、10%です。20歳未満の患者さんの比率は少ないです。疾患では、F2(総合失調症)が41%、F3(感情障害)が32%と多く、次いでF4(神経症性障害)が19%です。この3者で92%を占めています。

	割合	平均入院日数
F0(認知症等)	4.9%	72.5
F1(依存症等)	1.3%	42.3
F2(総合失調症)	42.5%	70.7
F3(感情障害等)	37.7%	65.0
F4(神経症等)	3.5%	61.6
F5(摂食障害等)	0%	0
F6(人格障害等)	0%	0
F7(知的障害等)	0%	0
F8(発達障害等)	0.6%	70.5
F9(小児等の行動障害等)	0.6%	19.5
てんかん	0.3%	2.0
睡眠専門	8.6%	1.3
全体	100%	61.4

平松アワー 笑って きくととも



尾形多佳士です。
宜しくお願い
いたします。

今回のゲストは
この方!!
尾形多佳士さん

第7回目の「笑ってきくととも」のゲストは、精神保健福祉士の尾形多佳士さんです。尾形さんは、この広報誌を作成する「広報委員会」の委員長であり、精神保健福祉士としては当院以外にその職能団体などで広く活躍されているようです。平成22年6月に平松記念病院を退職することになりましたので、今回はゲストとして登場してもらうことになりました。それでは、尾形さん宜しくお願いいたします。

みなさん初めまして、尾形多佳士です。北海道に移住してから13年が経過しました。今ではすっかり北海道人の私ですが、私の出身は「福島県」です。北海道のみなさんは福島をご存知ですか？何をイメージされるでしょうか？果物の「桃」や地名としての「金津」までは比較的多くの方が知っているのではないのでしょうか？「白虎隊」や「磐梯山」、「喜多方ラーメン」や「赤べこ」、「野口英世」、ここまでちゃんとイメージできた方は立派な福島フリークです(笑)。私は、孟買と厳冬、そして高湿度という盆地特有の福島の「気候」と福島の「鮎(なまり)」がとても嫌い、最初は福島出身であることを恥ずかしいとさえ思ってきました。しかし今では、温かい人情味に溢れるコミュニティがあちこちで形成され、おいしいお米や果物がたくさん取れ、そして大切な家族や知人が暮らす福島という郷土を好きになっています。これは離れて暮らしてみても初めて分かったことでもあります。こういったことって日常にたくさんありふれていると思いませんか？少し距離を置いてみたり、一度冷静になってみたりすると、実は目の前にあった大切な何かに気付く…。そんなちょとした試みで、心境が不思議と変化すること最近では楽しむようにしています。みなさんも辛い状況に置かれたときには、一度冷静になって現状の良いところ探しをしてみませんか？

さて、私は広報委員の立場として、そして精神保健福祉士の実務として、「地域に開かれた病院作り」というテーマにずっとこだわりながら実践を続けてきています。精神科医療ってどんなことをしているんだろう…。精神科の患者さんって一体どんな人たちなんだろう…。このように、精神科の実態って一般的にはあまり知られていないですよね。センセーショナルな記事や報道に代表されるように、マイナスなイメージばかりが先行されてしまう場合も多いように感じます。そこで、地域住民のみなさんや入院している患者さんやそのご家族に向けて、当院の業務や活動内容を広くお知らせしたり、外部のトピックスをいち早く取り入れて院内へ持ち込んだりと、病院と地域の橋渡しをするような業務を担うことが重要であると考えてきました。これら広報の意味での「精神科医療の啓蒙活動」を行うことは、広報委員会の存在意義そのものでもありますし、私自身の重要任務の一つとしても掲げてきました。院内はもちろんのこと、外部の全ての関係機関との繋がりを大切にネットワークを広げていくことは、精神保健福祉士としての支障ツールの拡大という目的だけではなく、病院と地域が一体となっていくための地道な具体的実践となり得ると思って活動させていた

だっている次第です。

この広報誌「藤岩嶺(もいわれい)」は、創刊が2004年、今号で21回の発行を数えます。



この誌名は、当院の先代院長の故平松勲先生の別業名である「藤岩嶺」をそのままいただきました。札幌の象徴、「藤岩山」の雄大さとその四季に富んだ優美さを詠嘆できるように、そして、その藤岩の裾野に抱かれている当院が、地域に根ざした病院となれるようにとの願いの込められた誌名です。先代の遺志を引き継ぎ、これからも地域のみなさんと共に歩んでいけるような病院作りを目指して参りますので今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

(最後になりますが、当誌を御覧になった全ての方々への感謝を申し上げますとともに、これからも当院に対しまして、なお一層のご理解とご支援をお願いできれば幸いです。また、出来る限り多くの方々のお声を頂戴して、当院の運営に反映させていきたいとも考えております。お気づきの点などございましたら、是非、広報委員会および精神保健福祉士までご連絡くださいますようお願い申し上げます。)



尾形多佳士さん
プロフィール

1978年、福島県生まれ。2001年、北海道医療大学看護福祉学部卒業。同年、平松記念病院入職。2007年、北海道医療大学大学院看護福祉学研究所修士課程修了。趣味はサッカーと旅行。当院では、精神保健福祉士としての業務の傍らで広報委員長を務めている。



広報委員の面々

次回は **デイケアの「吉田 雅幸」さん**

へバトンを渡したいと思います

次回も
お楽しみに

新人さんの紹介

新年度を迎え、平松記念病院でも看護師や作業療法士、精神保健福祉士等々新入職員を迎えています。4月5日(月)には初任者研修会が開かれ、当院の理念や精神保健福祉士法についてなどの講義やグループワークが行われています。フレッシュな面々に、今後の活躍を大いに期待したいと思います。



作業療法士(デイケア) 高藤 集

室蘭市出身の23歳です。名前の集は「あつむ」と読みます。友達がたくさん集まるようにと親がつけてくれました。運動は見るのもするの好きです。中学・高校の6年間はバドミントンをしていました。他にも水泳・スキー等もやっていました。社会人1年目で平松記念病院に勤めて1カ月が過ぎ少しずつ慣れてきてはいますが、まだまだ未熟な点もあり、ご迷惑を掛ける事も多いかと思いますが、よろしくお願いします。



看護師 近江俊郎

2月8日に入社いたしました。新館2棟のような急性期病棟で勤務するのは初めてなので、最初は大変不安でしたが、病棟スタッフのみなさんが親切にアドバイスしてくれるので、今は安心して仕事をしています。今後の抱負として、精神疾患を理解し、その人に合った看護ができるように日々学習を重ねていきたいと思っています。色々な場面で皆様にお世話になることがあると思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。



精神保健福祉士 豊田亜弓

4月より精神保健福祉士として働かせていただくことになりました豊田亜弓と申します。不慣れなこともあり、ご迷惑をおかけすることも多いですが、日々学び向上していきたいと思っています。まずは自分自身の健康に気をつけ、何事も積極的に取り組み元気に働いていきたいです。多くの業務をこなせるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



5月19日(水)「合同レク カラオケフェスティバル」が開催されました。桜満開「春」真っ只中の時期に開催される紅白対抗カラオケフェスティバルですが、会場内の様子も沢山の声援と熱のこもった歌声により、季節同様華やかな雰囲気となりました。今年の紅白対抗戦は熱戦の末、白組の優勝となりました。来年も楽しみですね。

編集後記

みなさんはじめまして。リハビリ課の井村です。21号に目を通されてお気付きになられた方もいるかと思いますが、4月から産休に入られたイラスト担当の山田さんの代役としてお手伝いさせていただく事になりました。楽しいイラストが描けるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。 井村

理念

適切な精神科医療・保健・福祉をめざし、次の二つの柱を基礎に据えます。

1. 精神障害者の医療および保護を行い、自立のために社会復帰および社会的経済活動への支援をします。
2. その障害の予防に取り組み、市民の精神保健の向上をめざし、地域に根ざした病院を目指します。

基本方針

理念を実現するために5つの基本方針を定めます。

1. 私たちは、人権を尊重し、信頼と満足感を持っていただけるように努めます。
2. 私たちは、あいての身になって「受容的態度をもって接する」ように努めます。
3. 私たちは、自己研鑽に努め、情報を共有し、連携・協力し合うチーム医療を目指します。
4. 私たちは、常に新しい医療・保健・福祉システムを提供できるように努めます。
5. 私たちは、地域における自らの役割を認識し、地域に貢献します。

患者様の権利綱領

私たちは、患者様の以下の権利を遵守して日々の医療を行います。

1. 安全で適切な医療を公平・平等に受ける権利
2. 個人として人格を尊重される権利
3. 治療、病状、検査などについて、納得のいく説明を受ける権利
4. 十分な説明や情報提供のもと、どのような医療を受けるかを選択する権利
5. 個人情報やプライバシーが守られる権利
6. セカンドオピニオンを受ける権利

特定医療法人社団豊田会 平松記念病院

発行人 平松記念病院 広報委員会 発行日 2010年5月25日
〒064-8536 札幌市中央区南22条西14丁目
ホームページ: <http://www.hiramatu-mhp.or.jp>
E-mail: webmaster@hiramatu-mhp.or.jp
TEL: (011)561-0708 FAX: (011)552-5710

表紙写真
shouki